府中市

分梅町自治会連合会

事例集

事業名

防災訓練を兼ねたSDGsクリーン納涼盆踊り大会の開催

事業概要

- 防災倉庫に保管している大型蓄電池などの機材の点検と操作訓練を兼ねた「SDGsクリーン納涼盆踊り大会」を開催。
- 提灯の照明をLED化するとともに、太陽光で充電した蓄電池により、盆踊り大会に必要な全ての電力を賄った。

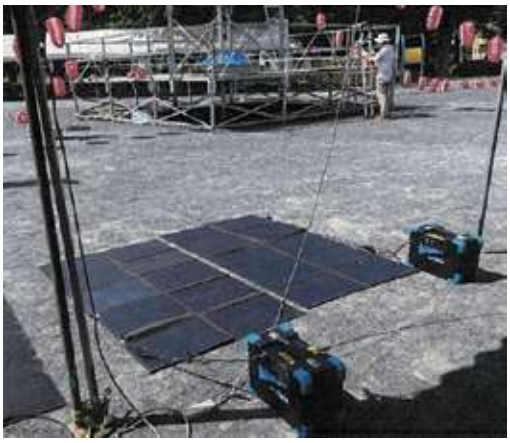
実施期間　令和6年6月3日～9月5日
参加人数　495名
事業総額　約94万6,000円
（地域の底力発展事業助成金　92万4,000円）

役割分担
《企画・広報（約15名）》町会役員が企画・チラシ制作を担当
《開催準備（約30名）》町会役員、青年会が各種申請・委託業務等を担当
《実証実験（約10名）》町会の元技術職らが大型蓄電池等の性能確認を実施
《会場設営・運営（約80名）》町会役員、班長、青年会等が当日の設営、運営、撤収を担当

主な経費（助成対象）
- 打合せ経費　ペットボトルお茶
- 物品購入費　食材、事務用品、参加賞
  LED電球（100個）、蓄電池、インクカートリッジ
- 印刷経費　チラシ、ポスター
- 役務費　紅白幕クリーニング代、イベント傷害保険
- レンタル・リース料　音響機材
- 工事費　電気照明配線工事

事業の開始から終了までの主な流れ

令和6年
6月5日　初回打合せ。事業方針、日程、役割分担を検討
6月～8月　LED点灯実験、蓄電池の稼働実験を実施。実験結果を自治会のLINEグループで共有
7月21日　第2回打合せ。進捗状況を確認
7月下旬　チラシを回覧、掲示板やコンビニ、郵便局等にチラシを掲示し周知活動を実施。英文チラシも掲示・配布
8月12日　第3回打合せ会議。最終進捗状況の確認
8月24日　「SDGsクリーン納涼盆踊り大会」を開催
8月31日　反省会


稼働実験の様子。太陽光発電パネルを使い大型蓄電池に充電

事業の実施内容

「SDGsクリーン納涼盆踊り大会」を開催

全ての電力をクリーンエネルギーで賄う

９つの自治会で構成される分梅町自治会連合会では、合計300点以上の防災機器を各地区の防災倉庫に保管している。重要な機器の１つが太陽光発電パネルとセットで使える大型蓄電池で合計７台保有している。

この大型蓄電池は、万一の災害時に住民の避難生活を助ける重要な役割を果たすが、緊急時に皆で正しく操作できるかどうか、仕様通りの性能を発揮するかどうかは、実際に使ってみなければ分からない。

そこで、メンバーらが、「防災訓練を兼ねて、太陽光発電の電気100％で納涼盆踊り大会を開催しよう」と提案。前年まで業者に委託していた提灯の照明を全て自前で既存電線を再利用してLED照明に切り替え、「SDGsクリーン納涼盆踊り大会」が初めて実現した（業者の電気・配線工事が不要に）。

開催当日までには、照明や放送、模擬店の機器で使う電力消費量を試算。操作方法を確認しながら、防災訓練を兼ねて実証実験を実施した。

実証実験を経て、提灯の照明をLED化するとともに、太陽光で充電した蓄電池により、盆踊り大会に必要な全ての電力を賄った。

盆踊り大会には、外国籍の人も含め500人が集まり、交流を深めた。

全ての提灯をLED電球に交換し、照明に必要な電力を約9割削減

事業による成果・効果

地域からSDGsの取組を広める

「防災訓練を兼ねた盆踊り大会で、大型蓄電池の操作方法や性能を確認でき、地域防災力の強化につながりました」と会長の山岡さんは振り返る。また、今回は60Wの電灯の代わりに7.8WのLED電球を活用。会場の全ての電力を太陽光発電で充電した蓄電池で賄い、参加者にSDGsを発信した。「全ての電力を太陽光で賄った盆踊りは画期的な取組」と山岡さん。「舞台裏では苦労もありましたが、参加者からは『SDGsって、簡単にできるんですね』といった声が聞かれました」と語る。今回の取組が、地元住民にSDGsについて考えてもらう第一歩となった。

事業を振り返って

声　新しい取組を地域から発信

自治会連合会には、全国の発電所で空調設備工事を担当した技術者、元大学の先生など、情報通信やAI（人工知能）に詳しい人もいる。「何か新しいことを取り入れようと、普段から皆で話をしています」と会長の山岡さんは成功の背景を説明する。役員の中には、旅行代理店での勤務経験から海外をよく知る人もいる。「盆踊りは、日本から発信できる文化の１つ。分梅町自治会連合会からクリーンな盆踊りを世界に普及させたい」と夢は広がる。

お話を伺った分梅町自治会連合会の皆さん。左から3人目が会長の山岡さん